

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖商業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	総合評価すると、それぞれの項目の数値目標を概ね達成することができた。次年度も、職員の資質向上を図るとともに、保護者、関係機関と連携を密にし、個の課題に迫った授業を充実させ必要とされる学校づくりに努めていく。しかし、本校の魅力を発信するためには、新たな取組や地域との連携しながらの取組を充実させていく必要がある。
2 学校教育目標	・ビジネスに関する知識と技術を学び、探究的な学習を通して、経済社会に貢献できる生徒を育成する。 ・部活動や学校行事等を通して、多様な価値観を認めることができる人間性豊かな生徒を育成する。 ・地域との連携・協働を通して、地域の課題を解決し未来を創造することができる生徒を育成する。
3 本年度の重点目標	①自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる生徒を育成する。 ②何事にも積極的に挑戦する生徒を育成する。 ③授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 ④地域の期待に応えられる魅力と活気に満ちた学校づくりを推進する。 ⑤本校の特色ある教育活動や魅力等の発信に務め、志願者増を図る。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○自分の意見や考えを相手にわかりやすく伝えることができる生徒を育成 ○授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成	○「話し合いや発表などを通して学習への意欲が高まった」と答えた生徒85%以上 ○自分を向上させるために、言動の改善に取り組むことができる」と答える生徒(3年生)80%以上 ○「資格取得をとおして達成感を感じた」と答えた生徒(1・2年生)85%以上	・HR時にスピーチを行うとともに、読書の習慣化を図る。 ・各教科で主体的対話的で深い学びを目指した授業研究会を実施する。 ・「課題研究」を通して、課題を見出して、解決策を研究する過程について毎学期の発表と振り返りを行う。 ・TT、習熟度別指導、特課により、個別の生徒に対応した指導を行う。 ・ICT機器を活用し、生徒の興味を引き出す授業を実施する。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「高校生らしい(心遣い)の発言や他者に対して思いやりや感謝の心をもって接することができる」と答えた生徒85%以上	・人権講演会の実施 ・「情報処理」LHRIにおいて情報モラル教育、人権教育を実施する。	B	・「高校生らしい心遣いの発言や他者に対して思いやりや感謝の気持ちをもって接することができるようになった」に対する肯定的な回答99%。 ・SNSトラブルを含め、情報モラルに関する全校集会やクラス指導をとおして、「人権」に配慮した言動を促すことができた。	A	・数値目標を超えているので評価はAでよい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめアンケートを年3回実施する。 ・いじめの認知・覚知の対応マニュアルを職員に説明する機会を設ける。 ・教育相談に関する情報提供の会議を実施する。	B	・いじめの未然防止や早期対応に対する肯定的な回答は94%であった。 ・12学期は生徒と保護者にアンケートを実施、いじめ認知が3件、覚知のみが1件であった。 ・職員会議で生徒情報やアンケート結果を周知した。	A	・熱心に指導されていることが、結果へと結びついている。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒85%以上	・郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業や特別活動を行う。 ・地元企業の魅力を伝えるキャリア教育、就職活動の支援を行う。	B	・「佐賀語り」を用いた学習・発表活動では、グループワークや学習用PCを用いたプレゼンテーション活動を行うことができた。 ・「佐賀に誇りや愛着を感じる」に対する肯定的な回答86%以上。	A	・企画甲子園等にも積極的に参加しているので、評価はAでよい。また、ふるさと志向で県内に多数の生徒が就職している。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒100%達成	・食育に関するアンケートの実施(2回) ・食に関する講演会の実施	A	・2回のアンケートを実施した結果、すべての生徒が「食」の重要性を認識している。次年度以降も「食育」を継続しながら、さらに踏み込んだ実態調査を行いたい。 ・講演会で、食育の重要性を十分理解することができた。	A	・数値目標を超えているので評価はAでよい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・PTAと職員、風紀委員での交通安全指導や、スクアードストレイト自転車運転教室を開催しての、事故防止啓発活動をする。	A	・アンケートでは99%の生徒は、安全意識が高まったと答えている。事故が起こる原因を実際に見ることで、交通事故を防ぐ具体的なポイントを理解したと思われる。	A	・数値目標を超えているので評価はAでよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ○年休取得、平均14日以上を推進する。	・時間外電話対応システムの導入により、電話対応を削減する。 ・定時退勤日及び閉庁日を設定する。 ・時間外の多い職員に対し、業務内容の確認と指導を行う。	B	・年休取得平均は、10.9日(前年10.6日)であった。アンケートで86%の職員は、業務の効率化を図り、時間勤務の削減に努めていると回答した。しかし、校務分掌業務や部活動指導で一部の職員に、時間外勤務が多かった。 ・月80時間を超過する職員には、業務時間制限や業務の見直しを行うこととし、意識の改革を図っている。	B	・現場の大変さを考える理解できる。休暇を取得しやすいよう声掛けをされている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				★魅力ある学校づくり	★地域の期待に応えられる魅力と活気に満ちた学校づくりを推進	★「地域社会の現状について知識を得るとともに、地域課題の解決に向け、日々の学びを活かそうとする」と答える生徒(3年生)70%以上	・「課題研究」の共通テーマを「地域×商業」とし、学科・コースの専門分野を生かした調査研究や作品制作活動を行う。 ・SAGAスマート・ラーニングを推進する。
○挑戦する生徒の推進	○何事にも積極的に挑戦する生徒を育成	○学校から案内される「各種イベントや大会への参加、コンテスト等に応募したいと思うようになった」生徒80%以上	・世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業を推進する。 ・部活動加入を推奨する。 ・海外交流、ボランティア、コンテスト等の情報提供を行う。	B	・学校から案内される「各種イベントや大会への参加、コンテスト等に応募したいと思うようになった」生徒78%、「ボランティア活動に参加したいと思うようになった」生徒87%となり、おおむね数値目標を達成した。	B	・地域のイベント等に参加して、達成感を感じるよう工夫をしていただきたい。
○魅力等の発信	○特色ある教育活動や魅力等の発信	○一般選抜試験の志願倍率1.1倍以上	・全校的な情報発信への転換のため生徒広報委員を設定する。 ・新しい情報発信の方法を検討・実施する。 ・体験入学の企画を充実させる。	B	・11月実施の第2回希望調査では、1.09倍(前年度0.84倍)で、昨年度に比べると増加しているが、目標値は達成していない。 ・インスタグラムの開設やHPの地域連携等の発信、中学生対象のプログラミング教室は効果があったと思われる。	B	・数値目標は、達成できていないが情報を工夫して発信されている。今後は、保護者へ情報を知っていただく工夫をしていただきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	・総合評価すると、それぞれの項目の数値目標を概ね達成することができた。「魅力ある学校づくり」を模索している段階だが、在校生の意識に変化が表れていると感じている。中学生の進路希望調査では、前年比で増加に転じており、成果の検証が必要である。今後も、教科の学びだけでは実践できない特色ある教育に取り組むことで、学校の魅力を高めたい。
----------------	---